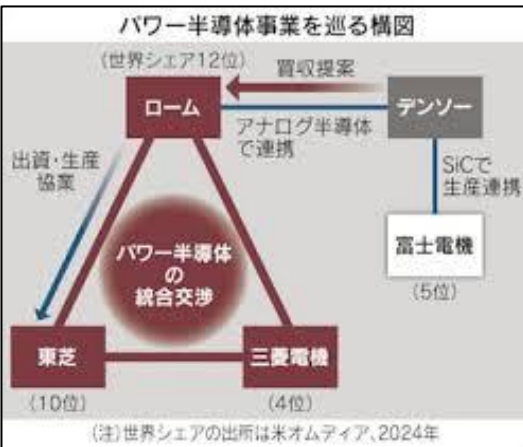


NMO OfficeLetter

ローム東芝との事業統合協議再開する

京都市右京区の半導体製造大手企業のロームが、パワー半導体の事業統合に向けて、東芝、三菱電機と協議を開始することに合意したと発表した。3社の事業統合が実現すれば、世界シェアで2位になる。パワー半導体はEVや電気分野のインフラ設備向けに需要が見込まれるが、欧米でのEV事業の伸び悩みや中国との激しい競争で、事業統合の協議は停滞していた。ロームへは車載部品大手のトヨタ系列のデンソーが買収提案を持ち掛け



ていた。この買収提案で統合協議が一気に加速することになった。

＜解説＞ロームは2023年東芝が株式を非上場化し、日本産業パートナーズ(JIP)による買収の際に3000億円という巨額の出資を行い、最大の株主になった。しかし、その後車載分野の事業の停滞があり、本業の建て直しに注力していたので、統合協議は一向に進まなかった。そこにボールを投げたのがデンソー。統合が進まないなら、デンソーがロームを買収すると持ち掛けた。デンソーはロームの最大株主でもある。これに刺激を受けて、今回統合協議の再開を発表した。東芝にしてみれば、デンソーの買収提案が大きなインパクトになった。ロームがデンソーからの買収提案を受けいければ、車載事業からの売上は安定する

が、トヨタ系列に組み込まれ事業の自由度は落ちることは明白だ。そのため、統合協議の再開が急がれる事態になった。ただ、ローム側としてはデンソーとの買収協議も継続するという意向だ。東芝の非上場には国も一定の金額を拠出しているが、過去にNECと日立製作所がDRAM事業を統合しエルピーダメモリーという法人を立ち上げたが、船頭が多くどちらが主導権を取るのかが明確でないまま迷走し、最終的に経営破綻したという苦い過去がある。今回も、3社の協議でどこが事業のリーダー



シップをとるのが明確にならないと、同じように事業が迷走する可能性がある。ロームの東社長は夏までに結論を得ることにしたいと発言した。ロームはパワー半導体事業で炭化ケイ素(SiC)に技術的な強みがある。ただ統合対象の2社(東芝・三菱電機)も日本では名門の企業だ。社歴ではロームより圧倒的に長い。この3社の中でロームが事業の主導権を取れるかは未知数だ。